極少人数学級における基礎･基本の確実な定着を目指した指導法の改善

十島村立口之島小･中学校

1 研究のねらい

本校は，極小規模・小中併設の特色を生かし，日ごろから児童生徒の実態に合わせた指導や，小中合同の学習活動などを行っている。また，全教員が年に１回は研究授業を実施し，指導力の向上を図っており，その中でPCやタブレットといったICT機器やテレビ会議の利用も活発になってきた。しかし，教材研究や指導法の工夫で教師個人の指導力は向上しているが，教師の入れ替わりの多い本校では，実践の成果や課題を全体で共有し，さらにそれまで蓄積した実践を次年度の指導へ生かしていくことが難しい。そこで，小学校と中学校の垣根をなくし，学校全体で共通実践に取り組むことで，指導に一貫性や継続性が生まれ，学力向上につながるのではないかと考えた。

2 研究の概要

前年度研修では，授業での実証を１年間繰り返しながら，小学校・中学校の共通実践事項を作成した。本年度の研究では，共通実践事項にもとづいた授業づくりを進めるとともに，個人の授業力だけではなく学校のチーム力として，さらに研究を深めるために，複式指導や個に応じた指導を充実させていくことを目指していくことにした。

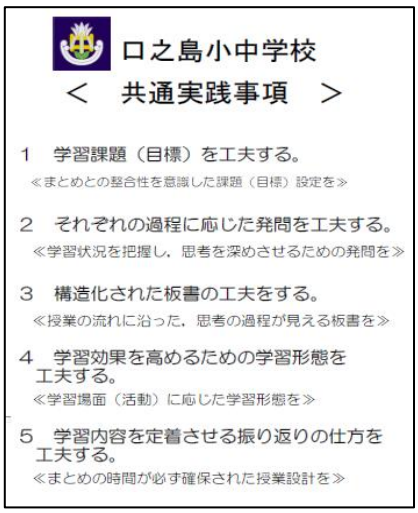
3 研究の内容

（１）共通実践事項の取組
（２）複式指導の充実
（３）個々の児童生徒に応じた指導の工夫

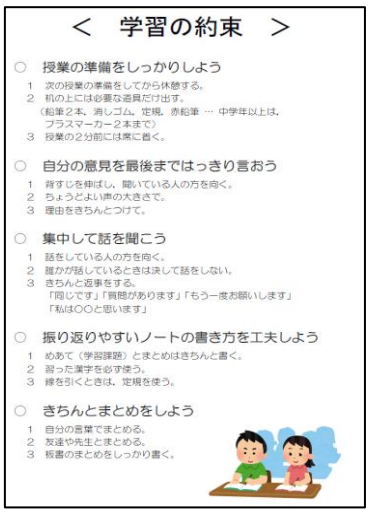
4 研究の実際

（１）共通実践事項の取組

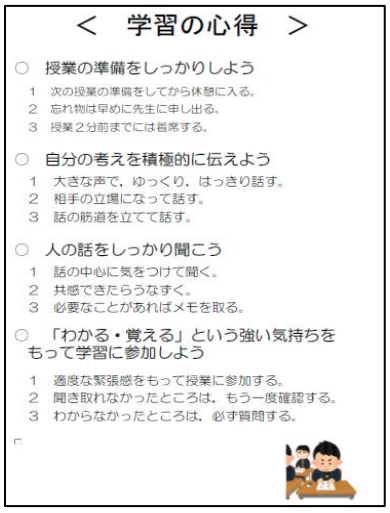
これまでは，小学部と中学部で，また，中学部内でも各教科の担当によって授業のスタイルが異なることから，学校全体で授業づくりにおける共通実践を行うことが難しかった。しかし，学力の向上を図るためには，指導の一貫性が必要である。そこで，校種や教科を問わず，授業における共通実践事項を作成し，明確にすることで，学校全体で学力向上に取り組むことにした。研究授業を実施する場合，校種や教科の専門性にとらわれることがないよう，この共通実践事項に基づいて授業を参観・分析するようにした。また，学習の約束事を児童生徒と共通理解することにより，指導に一貫性と継続性をもたせることをねらいとし，児童生徒用の「学習の約束（心得）」を作成した。



【共通実践事項】



【学習の約束】



【学習の心得（中）】

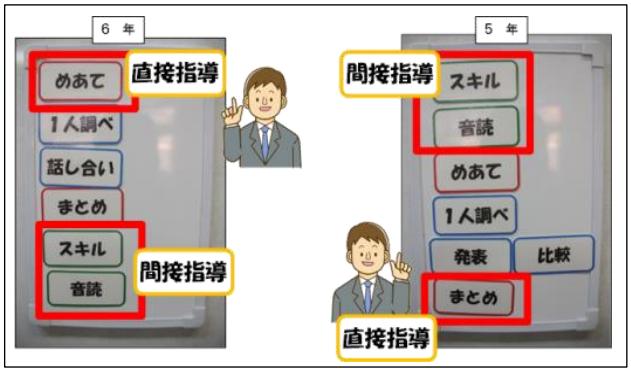
（２）複式指導の充実

ア　ガイド学習の手引きの作成

複式指導には，ガイドの育成が欠かせないが，これまで，本校にはガイドの手引きが存在しなかった。そこで，発達段階に応じた系統的なガイドの育成を図るために，小学部全体でガイド学習の手引きを作成・活用した。

イ　ずらしの明確化

複式の指導において，「ずらし」の過程を明確にするようにした。特に，導入段階では，一方の学年に直接指導で学習課題をつかませたり，めあての焦点化を図ったりしつつ，もう一方の学年では，前時の復習や練習問題に取り組ませるなど，ガイドが学習を進められるような学習活動を設定するようにした。ガイド学習の手引きと同様に，小学部全体で指示ボードを作成し，一単位時間の学習の流れを教師と児童が共有できるようにした。



【指示ボード上での「ずらし」】

（３）個々の児童生徒に応じた指導の工夫

各学級が極少人数で構成されていることを生かし，一人一人の児童生徒の特性に応じた学習指導を行っている。特に今年度は，中学校は２年生が１名しか在籍しておらず，常に教師と生徒の１対１の授業となり，同世代の友達の中で自分の意見を伝えたり，考えを深め合ったりする活動が困難である。そこで，感想や反省等も含め，様々な場面で自分の考えや思いを書いて表現するという活動を取り入れるようにした。

- 自分の言葉で表現する場面の確保
- 毎時間の自己評価及び感想・反省の記入
- 単元末のレポート作成
- 定期テストにおける感想・反省の記入

【数学における指導の例】

また，家庭学習等における課題の出し方も，基礎・基本的なものから応用・発展的なものまで，一人一人の児童生徒の実態に合わせるようにした。

5　研究のまとめ

（１）成果

共通実践事項を継続することにより，教師の授業への意識が高まった。導入の工夫や定着を図る場面の設定など，日々の授業実践が確実なものになってきている。複式指導では，ガイド学習の手引きや指示ボードを小学部全体で作成・活用することで，間接指導が効果的になってきた。特に，意見交換の場面では，ガイドを中心に，児童だけでも話し合いを進められるようになった。さらに，一人一人の児童生徒に合わせた指導を工夫することにより，学習への適応感が高まった。児童生徒も自らの課題解決や学力向上のために，教師とどのような連携をとればよいか，見通しをもてるようになってきた。

（２）課題

離島の極小規模校という環境にあり，児童生徒に「問題意識」や「課題意識」をもたせることが難しい。学習がより主体的なものとなっていくためにも，これらの意識をもたせることができるような日頃からの環境づくりや学習課題を含めた授業の改善を図っていく必要がある。

6　今後の取組

本実践を継続していくとともに，新学習指導要領に掲げられる「主体的，対話的で深い学び」について研究を進め，新しい時代に必要とされる学力を児童生徒に確実に身に付けさせていきたい。